

## 船の科学館で実験教室を開催しました。(2019年度)

塩と暮らしを結ぶ運動では、8月4日(日)、東京都品川区の「船の科学館」の「海の学び舎 わくわくキッズパーク」の一環として、昨年度に引き続き、「お塩の実験教室」を開催しました。

今回は、「お塩の実験教室 塩ねんどをつくろう！」と題して、塩、小麦粉と水からねんど(粘土)をつくる実験を行いました。

午前、午後の2回実施した実験教室は、いずれもほぼ満員(各回定員20名)で、未就学児から小学生の皆さんに参加いただきました。

最初に、ビニール袋に入った小麦粉に、塩を入れてよく混ぜます。次に、水を2回に分けて入れながら、よく捏ねていくと、ねんどができます。

まず白いねんどをついたら、次は食紅を加えて色付きのねんどもつくりました。食紅の色は、赤、青、黄、緑の中から好きな色を選んでもらいました。水を入れると、食紅が溶けてきれいに発色する様子を、歓声が上がっていました。

特に小さなお子様には、ねんどを捏ねるのはなかなか大変な作業でしたが、保護者の方々にもお手伝いいただき、無事、白と色付きのねんどができました。

海と縁の深い「船の科学館」のイベントということで、でき上がったねんどを使って、お魚やイルカ、クジラなど、海の生き物をつくって楽しんでもらいました。短い時間でしたが、力作が揃いました。

最後に、参加者の皆さんには、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』などをお渡ししました。ねんどづくりを通して、塩には食べ物に味をつける以外の働きもあることを、実感していただけたのではないかと思います。



## 船の科学館で実験教室を開催しました。(2018年度)

東京都品川区の「船の科学館」では、毎年夏休み、中学生以下を対象とした「海の学び舎 わくわくキッズパーク」が開催されています。毎週土・日曜日や祝日に、海に関わりのあるさまざまなテーマの特別体験プログラムが実施されていますが、塩と暮らしを結ぶ運動でも、その一環として、海と関わりの深い塩をテーマに、8月5日(日)、「お塩の実験教室」を開催しました。

当日は、午前と午後の2回、それぞれ定員20名を先着順に受け付けましたが、2回とも、暑い中、時間前から大勢の方に並んでいただき、どちらも満席でした。小学生を中心に、幼稚園・保育園児から中学生まで、幅広い年齢層の皆さんに参加いただきました。

実験教室では、後ろで保護者の方々が見守る中、クイズと実験を交えて塩の性質や塩と暮らしの関わりについてお伝えしました。「塩の結晶は何色？」というクイズでは、「透明」という正解に、驚きの声が上がりました。また「冬に道路が凍らないように撒くものは？」のクイズでは、「塩」という答えが、参加者には意外だったようです。

真水と塩水の浮力を比べる実験では、一生懸命に塩を真水に溶かして濃い塩水をつくってもらい、ゴルフボールが浮かぶことを確かめました。また氷点降下を利用して氷を釣る実験では、制限時間内に一つでも多く氷を釣れるよう、皆さんが頑張っていました。うまく釣れると、大きな歓声が上がっていました。

最後に、参加の皆さんには、『塩と暮らしのあれこれBOOK』や、ウチワ、塩飴などをお渡ししました。また、希望者には、塩イルカとの記念撮影もさせていただきました。

園児や小学校低学年の参加者には、氷点降下の話などは難しかったかもしれませんが、塩は食べるだけではないこと、食べる以外のところでも生活に密着した大事なものであることは、お伝えできたのではと思います。

